

- ・いもち病の注意報が出ました。注意を要するとともに、防除の徹底を!
- ・高温年が続いているため、カメムシに要注意! モニタリング利用で、的確な防除を!

カメムシ・いもち病防除のスケジュール

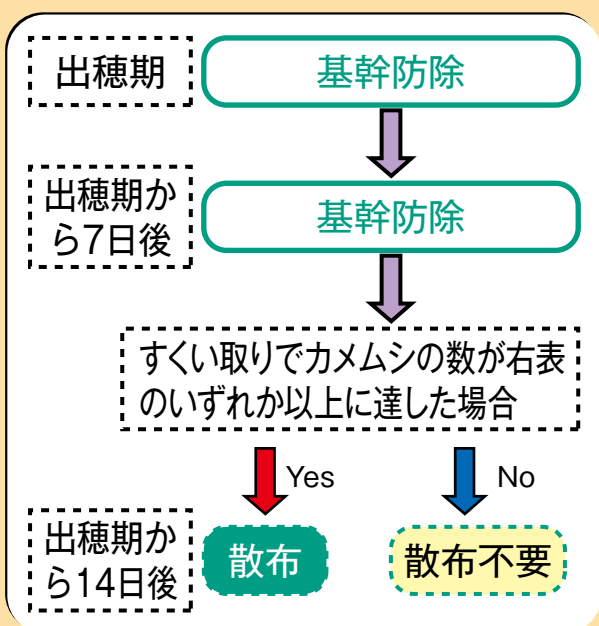
- ◆病害虫発生予察情報第8号 注意報第2号では、“本年のいもち病の発生は早く、やや多い予想”であるため、注意を要するとともに、防除の徹底が必要である。
- ◆カメムシ（アカヒゲホソミドリカスミカメ）は7月が高温少雨であると第2回成虫の発生量が多くなるため、発生期はやや早く、発生量はやや多めの予想（北海道病害虫防除所6月28日発表）である。モニタリングを利用した的確な防除を行う。

	7月	8月	9月
カメムシ防除		基幹防除	要否判定による追加防除
		出穂期 出穂後 7日目	出穂後 14日目 21日目 28日目
		○	○
いもち病防除	葉いもち	穂いもち	
	茎葉散布 (○) (○)		

○：必ず実施
○：発生に応じて実施

- ◆MBI-D剤によるいもち病防除効果の低下が懸念される水田では同剤の使用を避ける。なお、MBI-D剤を使用する水田では、防除ガイドに準拠して使用する。
- ◆メトキシアクリレート（Qol）系剤は西日本の一部で耐性菌が確認されており、①使用は年1回とする、②体系防除を行う場合は作用性の異なる薬剤と組み合わせる、③採種ほどの使用は避ける、④規定量の処理を行う。

モニタリングを利用したカメムシ防除



すくい取り

すくい取り時期	20回振りのカメムシ数	
	きらら397	ほしのゆめ
出穂10~12日後 (追加防除の2~3日前)	2	1



アカヒゲホソミドリカスミカメ



カメムシ被害による斑点米

ばか苗病対応

本田での発生に注意し、発病株は出穂前に早めに抜取り処分する。

農薬をほ場外に飛散させないために

- ・風の無い条件で散布する。
- ・ドリフト低減ノズルなどの器具を使用する。
- ・粉剤は、液剤や水和剤に比べ、ドリフトへの注意が特に必要。